

土佐清水市じんけんフェスティバル

12月19日（日）、土佐清水市人権フェスティバルが開催されました。これは、土佐清水市が実施している人権啓発の一環なのですが、この中に中高生による人権作文の発表のコーナーがあります。清水中学校の1年生・2年生から代表者各1名、清水高校の2年生から代表者2名が発表しました。



中学生は、二人とも「障がい」がテーマでしたが、それぞれに違った目線で、障がいのことや障がいを持つ人の生き方などを真剣に考えていることが伝わる内容でした。自分が現在思っていることや今後やってみたいこと、もっと世の中の人に知ってもらいたいことなど、中学生らしい感性で書かれていました。

高校生は、過去の体験から自分を見つめ直し、自分のとるべき行動を考えていくといった内容や、「普通」という言葉を何気なく使っているけれど、「普通」は人によって違っている。「普通」のもつ価値観は多様であるということを発表していました。

4人の発表者の内容はとても素晴らしく聞きごたえのあるものでした。

人権作文発表のあとは、『パパは女子高生だった』の著者である前田 良さんの講演会でした。

自分の性に違和感を覚え生き辛かった学生時代のこと、今の奥さんと出会って2人の子どもに恵まれ、「性別を変更した夫を父親として認める」判決を最高裁で手にするまでのことなどをお話していただきました。

とても有意義な一日になりました。



教育の魅力化が地域を創る

土佐清水市教育委員会